

第6学年1組 体育科学習指導案

1 単元名 跳び箱運動

2 運動の特性

跳び箱運動は、今できる技を安定させたり大きくしたり、少し練習すればできそうな技に挑戦したりすることが楽しい運動である。

3 児童の実態

(1) 知識・技能の状況について

開脚跳びができている児童は約9割(24名)、台上前転ができている児童は約7割(17名)、かかえこみ跳びができている児童は約6割(15名)、首はね跳びができている児童は約2割(7名)であった。開脚跳びができている児童は9割(24名)と多いが、「踏切り→着手→着地」を安定して全てできている児童は、約2割(4名)しかいなかった。特に着地に関してはピタッと止まれず体の重心が前にいってしまう児童が多かった。跳び箱運動のポイント「助走→踏切り→(第一空間の姿勢)→着手→(第二空間の姿勢)→着地」の理解をし、安全に楽しく跳び箱運動を行い、技能を伸ばしていきたい。しかし、技のつながりを理解していない児童もいたので、安全に行うために技の系統をしっかりと知る必要がある。

(2) 思考・判断・表現の状況について

「友達のよい動きを見付けることができますか。」という質問に対して、「仲のよい友達ならできる」「できない」と答えた児童が約4割(10名)いた。また「友達によい動きを伝えることができますか。」という質問に対して、同様の回答をしたのが5割(13名)いた。誰にでもよい動きを見付けたり、伝えたりできる児童は少なく、自分の思いや考えを伝えることには課題があることが分かる。

自分に合っためあてをたてたり意識したりしながら学習を進めることができない児童が一定数いる。また、いつもめあてをたてられる児童は約4割(10名)、めあてを意識しながら学習できるのが約2割(5名)だった。夏休み明けの単元では、各時間のめあてをたて、意識しながら学習している様子が見られている。できるようになりたい技では、開脚跳びや台上前転、首はね跳びから発展技の頭はね跳びや前方倒立回転跳びを行いたい児童など多様な思いをもって

(3) 主体的に学習に取り組む態度の状況について

本学級の児童は、体育の学習が好きな児童が約8割(20名)。その中でとても好きな児童が約5割(14名)と多い傾向にある。しかし、跳び箱運動が好きな児童は約6割(15名)その中でとても好きな児童は約2割(6名)と少ない傾向にある。「跳び箱運動の学習をしていて楽しいと思うときはどんなときですか」という質問に対して、「技が成功したとき」と回答した児童が一番多く、次いで「技がきれいにできた」ときという回答だった。跳び箱運動では、技ができたときにうれしい、楽しいという気持ちになる児童が多い傾向となった。また、「跳び箱運動の学習をしていて楽しくないときはどんなときですか」での回答では「怪我をしてしまうとき」が圧倒的に多く、「技を失敗したとき」が次いで多かった。跳び箱運動やマット運動などで怪我を経験したりその様子を見たりしたことや、失敗して恥ずかしい思いをしたことがある経験によりこの結果になったと考えられる。

4 研究の視点と学習の手立て

(1) 市教研体育部の研究主題

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

(2) 研究の視点と手立て

視点1 課題を見付け解決できる学習過程の工夫と指導内容の明確化

視点2 運動の楽しさや喜びを膨らませる関わり合いの工夫

<手立て>

○個々に応じた学習計画の作成

本学級の児童は、「技が成功したとき」「技がきれいにできたとき」に楽しさを感じている児童が多いが、自分の課題や練習方法について意識しながら学習できる児童が少ない。また、友達と協力して学習を進めていきたいという願いはあるが、昨年度の学習の中では、積極的に関わり合う姿が少なかった。前単元のマット運動の学習では、「うまい」や「上手だね」などの抽象的な賞賛の言葉が多かった。

そこで、本単元では、授業の初めに自分の目指す姿をもち、その姿になれるように単元全体を見通して学習計画を2時間目に作成する。学習計画には、

- ①単元を通して目指す姿
- ②行う技とそのポイント（7時間分）
- ③学習活動1と学習活動2の時配

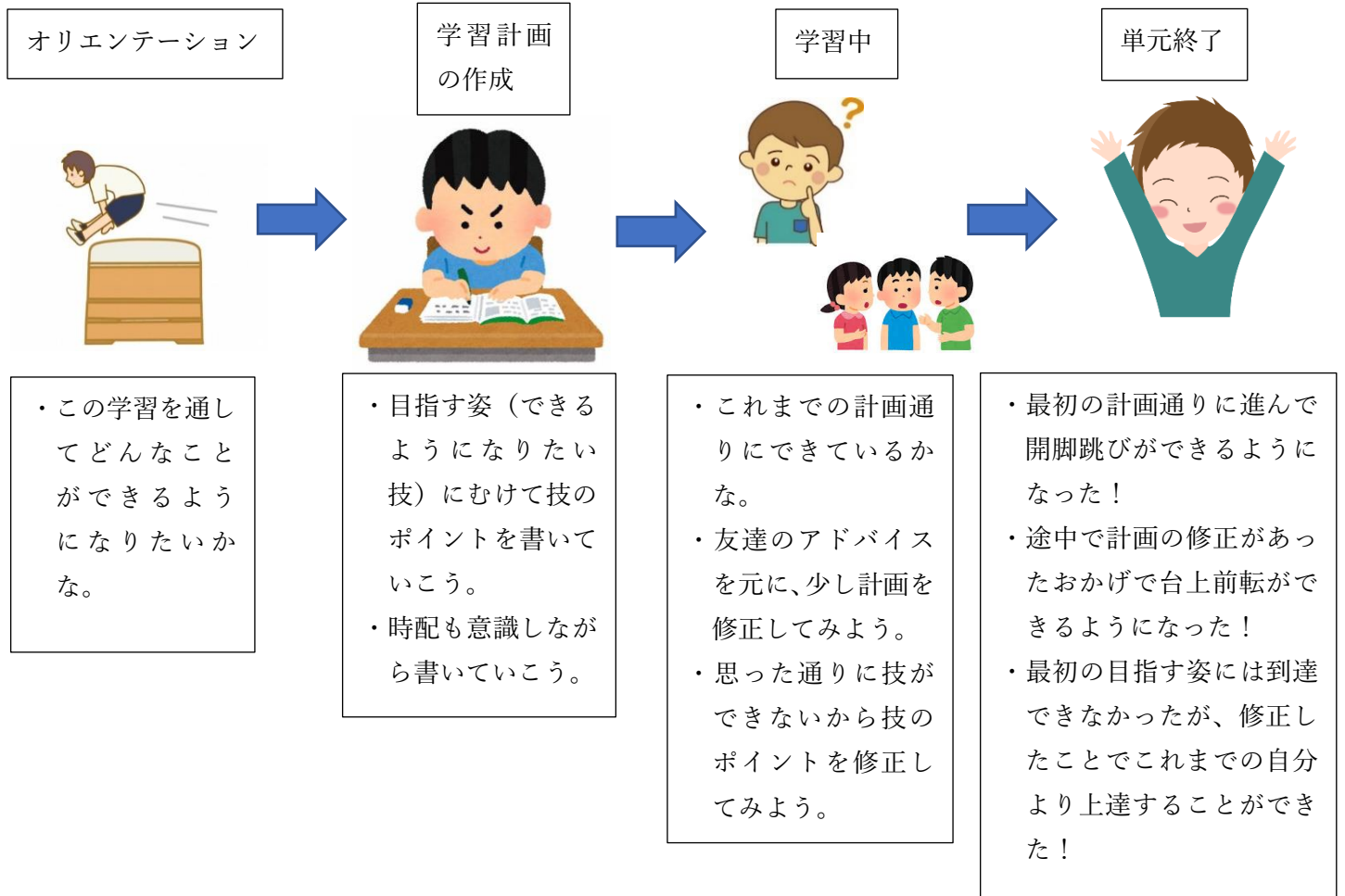
を書き、計画を立てていく。行う技とそのポイントを書く際には、技のポイントが示された資料（学校体育研究部から発行されたもの）を活用する。資料と向き合う時間を1時間とすることで、細かくポイントを知り個々に合った毎時のめあてを立てられるようにする。学習を進めていく中で、学習計画の修正を行っていくことも大切にする。学習計画を作成することで、次時以降に行いたい技や、技のポイントも分かっているのでその時間のめあてを達成した場合でも、素早く次のめあてに向かって取り組むことができる。また、計画よりも進度が遅かった場合には計画を少し遅めて対応したり、次の時間にやることを増やしたりと目指す姿に向けて修正していけるようにしたい。

また、この学習計画を立てることで友達との関わり合いを充実させることにつながる。自分の技の動きを客観的に捉えたり、友達の動きを見てめあてに合った助言をしたりする姿を目指したい。この学習での充実した関わり合いとは、

- ・技を見てほしいときに見てほしいポイントを的確に伝えられる状態
- ・相手のめあてに合った助言ができる状態
- ・相手の助言に対して、自分の考えを的確に伝えることができる状態

の3点とする。この3つの状態を目指すために児童と関わり合っている様子を共有する。共有することで児童は関わり合うことのよさに気づき、自分の学習計画を修正するきっかけにつながるだろう。

<単元を通してのイメージ>



<学習計画例（マット運動における実績）>

とび 前転を安定させよう とびにきを出す。 きよいに回す。	ブリッジのき をキレイにする。 （なめらかに）	できる技を安定させよう どうもブリッジのき 安定させるポイント （なめらかに）	しんしつ前転を しんしつこうてん キレイにする。 （なめらかに）	はんどスプリングを したする。そくてん （なめらかに）
しんしつ後転を きようにする。 （足をそろえ て）	しんしつ 前転を きようにする （おもしろ い）	しんしつこうてん をする。 （いさお いさお）	はんど スプリング をきよう にする。	はんどスプリ ングをきよう にする。 （いさお いさお）
反省と計画の修正	反省と計画の修正	反省と計画の修正	反省と計画の修正	反省と計画の修正
けん学。 しんしつこうてんを やらない。さんてんと つりつをやらない。	しんしつ前転が きよくなかったから しんしつこうてんを きよくする。	いかにいとしんしつ こうてんかきよく で、やうなうな。た うりつや、次の時 間からやろう。	しんしつこうてんを きよくにきよくした。 はんどスプリング も次の時間 できよう。	はんどスプリング がマットできよ くようになった。 しんしつ後転も 安定してきよくした。
楽しさ 友達 技	楽しさ 友達 技	楽しさ 友達 技	楽しさ 友達 技	楽しさ 友達 技
4時間 目標 はんどスプリング をきよくしたい。	しんしつ後転に 意識してきよ くするね！	できた！ ひうきさん、 やうやさんが きよくした。 きよくをきよくめ うな。	計画通り にきよくした！ いさおでや！	そくてんを きよくにきよく した。きよく のきよくを きよくした。

5 単元の目標

- (1) 跳び箱運動の行い方を理解するとともに、安定した基本的な支持跳び越し技ができるようになる。
(知識及び技能)
- (2) 自分や仲間の考えたことを伝えようとするとともに、自分の力に合った学習計画を立て、修正しながら学習を進めることができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 跳び箱運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えを認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
(学びに向かう力、人間性等)

6 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①跳び箱運動の技のポイントや系統性を言ったり書いたりしている。 ②安定して基本的な技ができる。	①課題解決のために自分が考えたことを伝えている。 ②自分の力に応じた学習計画を立て、修正しながら学習を進めている。	①跳び箱運動の楽しさを味わうために積極的に取り組もうとしている。 ②学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合いながら学習しようとしている。 ③用具の準備や片付けを仲間と協力しながらしようとしている。 ④仲間の考えや取組を認めようとしている。 ⑤場や用具の安全に気を配っている。

7 指導と評価の計画

	1	2	3	4	5	6 (本時)	7
学習のねらい	学習の進め方を知り、見通しをもつ。	学習計画を作成する。	自分の学習計画に応じて、技や練習の場を選んで楽しむ。				
0	オリエンテーション		準備運動、主運動につながる運動				
45	・約束の確認 ・準備や片付けの仕方 ・つながる運動 ・持ち技調べ ・技の系統性の確認		学習活動① 今できる技を安定させたり、大きくしたりして楽しむ。				
			学習活動② できそうな技に挑戦して楽しむ。				
知・技		① 観察・カード		② 観察・カード			② 観察・カード
思・判・表		② 観察・カード			② 観察・カード	① 観察・カード	
態度	③ 観察		② 観察	① 観察	④ 観察		⑤ 観察

8 指導計画

	学習内容と活動	教師の指導・支援○ 評価◇
はじめ (1時間目)	【オリエンテーション】 1 跳び箱運動の行い方を確認する。 1) 学習のねらい、道すじ 2) マナーや約束 3) 場の準備・片付けの仕方 4) 技の系統性の確認 2 活動①②の場づくりの仕方を確認し、それぞれの活動の楽しみ方を知る。 3 準備運動をする。 4 跳び箱運動のポイントを確認する 「踏切り→着手→着地」の一連の流れを確認する 5 主運動につながる運動を確認し、行う。 ・うさぎ跳び鬼ごっこ ・腰上げ ・跳び乗り、跳び降り 6 持ち技調べを行う。 7 振り返りを行う。 8 片付けをする。	○跳び箱運動の学習に見通しをもてるように、学習の道すじを伝える。 ○安全に楽しく跳び箱運動の学習に取り組めるように、約束やマナーを守って行うことを確認する。 ○安全に気を付けて協力して準備が行えるように跳び箱を運ぶときは、一人で運ばないことや1段目を他の段と切り離して運ぶ、マットの耳は、必ずしまうことを確認する。 ○学習に見通しがもてるように、今できる技を安定させたり、大きくさせたりする楽しみ方やできそうな技に挑戦する楽しみ方について確認する。 ◇用具の準備や片付けを仲間と協力しながらしようとしている。 【態度③】 ○跳び箱運動で体のよく使う部分を入念にストレッチできるように声をかける。 ○跳び箱運動の行い方（踏切り→着手→着地）を確認する。 ○手を突き放すように声をかける。 ○手で支持し、腰を高く上げるように伝える。 ○膝を曲げて、両足で静止する着地の意識を高める。 ○一連の動きを意識しながら行えるように確認する。 ○今日の学習を振り返り、次時の見通しをもてるように声をかける。 ○安全に協力して片付けが行えるように声をかける。

学習計画をたてる (2時間目)	1 学習の計画を立てる。 ○単元全体を見通して、今回の跳び箱運動を通して「この学習が終わったときに目指す姿」について明確に想像する。 ○「この学習が終わったときに目指す姿」から、そこに向かうために ・各時間どのような活動をするか。 ・どのような技のポイントを意識しながら行うか。 ・学習活動①と学習活動②の時配はどうするかについて考え計画をたてる。	○技の系統性を意識しながら計画を立てられるように声をかける。 ○各時間のめあてが分かりやすく書けているか確認する。 ○資料を活用しながら、めあてを書けるように声をかける。 ◇自分の力に応じて学習計画を立て、修正しながら学習を進めている。 【思・判・表②】 ◇跳び箱運動の技のポイントや系統性を言ったり書いたりしている 【知・技①】
なか (3～7時間目)	1 学習の場作りをして、準備運動を行う。 2 主運動につながる運動を行う。 ・うさぎ跳び ・腰上げ ・跳び乗り、跳び降り   3 めあてを確認し、活動を楽しむ。 学習活動1 今できる技を安定させたり、大きくしたりして楽しもう。 【予想されるめあてや活動の例】 技：開脚跳び ・「ドン」と大きな音を出して踏み切りができるようにしよう。 ・動きを大きくするために、踏切調節板を2枚置いて跳び越してみよう。	○協力して、素早く準備ができるよう声をかける。 ○跳び箱運動で主に使う部分を十分にストレッチを行うことで、怪我の防止につながることを伝える。 ◇場や用具の安全に気を配っている 【態度⑤】 ○踏切りでは、両足で強く踏み切れるように声をかける。 ○両手でしっかりと強く突き放せる着手ができるように声をかける。 ○ひざを曲げゆっくりと着地できるように声をかける。 ○学習計画をもとに、今日のめあてを確認させ、友達とめあてを共有しながら関わり合えるように声をかける。 ○一連の流れが安定してできている児童を取り挙げ称賛する。

技：かかえこみ跳び ・着手の時に手を強く突き放して跳び越せるようにしよう。 ・両膝が胸につくように引き寄せて跳べるようにしよう。 技：台上前転 ・へそをしっかりと見て体を丸めて回る。 ・腰を高く上げて跳んでみよう。 ・着地の時に膝を曲げてぴたっと止まってみよう。	○友達と考えを共有し合っている児童を取り上げ、友達と意見を共有することが重要であることを意識させる。 ○自分のめあてを友達と共有できるように各グループを回りながら、伝え合いの様子を確認する。 ○アドバイスが出来ない児童には見るポイントが分かる技カードを見るようにするなど分かりやすいように伝える。 ◇学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合いながら学習しようとしている。 【態度②】 ◇課題解決のために自分が考えたことを伝えている。 【思・判・表①】 ◇跳び箱運動の楽しさを味わうために積極的に取り組もうとしている。 【態度①】 ◇安定して基本的な技ができる。 【知・技②】
学習活動 2 できそうな技に挑戦して楽しもう。	
【予想されるめあてや活動の例】 技：開脚跳び ・段数の違う跳び箱をつなげて、前の跳び箱の上から跳び越す。 ・跳び箱の横に踏切調節板をおいて、腰を上げて跳び越す。 技：かかえこみ跳び ・マットの上でうさぎ跳びをして自分の手より足が前に出るようにしよう。 ・段数の違う跳び箱をつなげて、前の跳び箱の上から跳び越す。 技：台上前転 ・恐怖心を和らげるために、丸めたマットの上や、水深調節台の上で回ってみる。 ・段数の違う跳び箱の上から、腰を上げて回ってみる。	○必要な時に友達と見合ったりアドバイスしたりできるように助言する。 ◇仲間の考えや取り組みを認めようとしている。 【態度④】 ○肩を前に出し、腕に体重がのっていることを意識できるように助言する。 ○手が跳び箱の上に残らないように、突き放せるよう声をかける。 ○後頭部をつけ、膝を見ながらゆっくり回るとよいことを伝える。 ○必要な場合はタイムシフトカメラを活用させる。

	技：首はね跳び ・跳ねる感覚が分からないので、マットの上で頭はね跳びの練習をやろう。 ・段差があるところからはねる感覚を覚えるために、ステージの上から段差をつけて首はね跳びを行う。 4 学習の振り返りをする。 ・学習カードに記入。 ・計画の確認を行う。 5 片付け、整理運動を行う。	○安全面に配慮し、ステージ下にセーフティーマットを置く。 ○本時の学習内容と、2時間目に立てた計画を比べて必要な場合は修正していくように声をかける。 ◇自分の力に応じた学習計画を立て、修正しながら学習を進めている。 【思・判・表②】 ○今日使った部分を各自よく伸ばし、怪我がなかったか確認する。 ○安全に気を付けながら、協力して後片付けができるように声をかける。
まとめ	本単元のまとめをする。 ○単元を通して活動を振り返る。 ・安全に気を付けて活動できたか。 ・楽しく活動することができたか。 ・友達と自分の考えを伝え合うことができたか。 ・友達の助言を参考に、自分の動きをよくすることができたか。 ・技を安定させたり、新しい技を増やしたりすることができたか。 ○学習計画の最終評価 ・目指す姿になれる（近付ける）ことができたか。 ・効果的に修正を行うことができたか。	